

第35回 日本骨折治療学会へのお誘い

この度は第35回日本骨折治療学会を聖マリアンナ医科大学整形外科学教室で担当させていただき大変光栄でありますとともに会員の皆様に御礼申し上げます。会期は2009年7月3日(金)・4日(土)の2日間、会場はパシフィコ横浜であります。

「骨折は整形外科の基本」といわれるように、四肢・脊椎・骨盤などの運動器の外傷は整形外科医が担うべき重要な分野のひとつです。特に初期臨床研修制度がはじまり、運動器の外傷に対する治療は重要な基本科目であります。また、すでに開業されている整形外科の先生が最新の基本知識を再確認するという意味で、同学会の秋の研修会にも多くの参加者がございます。

第35回の学会のテーマは「骨折内固定法の進歩と限界」であります。ここ十数年間に於いて、四肢体幹に対する骨折固定法である髓内釘、ロッキングプレート、創外固定、経皮的椎体形成法などの大きな進歩がございました。特に近年、平均寿命の延びとともに患者のQOLを考え、強固な内固定による整復位の獲得、早期リハビリテーションによるADLの改善など、より良い治療法が望まれるようになってきました。これらの観点から、この骨折内固定法の進歩と限界について皆様と検討出来たらと考えております。

国際シンポジウムとして諸外国からと本邦からの講師により、この「骨折内固定材の進歩と限界」について討論を予定しています。また、シンポジウムとして「後期研修医に対する骨折治療-minimum requirement-」として、本学会の理事並びに重鎮としてご活躍の諸先生方に講師を予定しています。

特に、会員の皆様からの多くの一般演題、ポスター演題などをお待ちしております。さらに例年と同様にモーニングレクチャー、ヌーンタイムレクチャー、ハンズオンセミナーなどを企画したいと思います。

みなと横浜は観光地としての交通のアクセスも良く、7月は気候的にも最適な時期かと思えます。北海道整形外科外傷研究会の先生方の御参加を医局員一同心からお待ちしております。

第35回日本骨折治療学会

会長 別府 諸兄 (聖マリアンナ医科大学整形外科学教室)